

氏 名：平 野 蘭 子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
報 告 番 号：甲第117号
学 位 記 番 号：博第113号
学位授与年月日：令和6年3月13日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論 文 題 目：看護学実習カンファレンスに参加する看護大学生の体験：
ともに育つグループの醸成に向けて
Lived Experiences of Nursing Students Participating in Clinical Conferences during
Practicum: Toward Creating Groups Growing Together
論 文 審 査 員：主査 安 部 陽 子
副査 佐々木 幾 美（正研究指導教員）
副査 鷹 野 朋 実（副研究指導教員）
副査 渋谷 真 樹
副査 田 中 孝 美

論文審査の結果の要旨

審査の概要

本研究の目的は「看護学生は実習カンファレンスに参加し、その状況をどのように体験しているのか、特にこれまでのグループでの学習体験とのつながりから明らかにし、その体験にどのような意味があるのかを見出す」ことである。実習カンファレンスは、批判的思考スキルの開発、臨床学習の統合、グループ学習経験、反省的な対話などを目的とした教育的アプローチの一つである。教育においては、学生個人の体験を十分に理解した上で支援を検討することが重要である。にもかかわらず、「実習カンファレンスの状況を看護学生はどのように体験しているのか」は学術的に明らかになっていない。したがって、本研究が扱うテーマは看護学の発展のみならず看護教育の質向上に寄与する研究であることが評価された。

先行文献については、看護学実習カンファレンスやカンファレンスを行う看護学実習グループに関する文献が十分に検討され、既存の知識のギャップおよび研究の必要性が説明されている。よって、本研究は、既存の知識のギャップを埋めるために実施が求められる、オリジナリティの高い研究であると判断された。

研究デザインは質的記述的研究デザインであり、van Manenの解釈学的現象学的方法に依拠してデータ収集とデータ分析を行っている。看護学生の体験を明らかにするという研究目的と研究方法は合致している。

結果に関しては、9人の研究参加者の豊かなデータから抽出されたテーマを表現するために、申請者が複数の記述スタイルを検討した。最終的に、データより抽出された3つのテーマと、それぞれのテーマの意味の側面が、研究参加者の生データを用いて生き生きと表現された。これらのテーマと意味の側面は研究目的に沿った適切な分析により抽出されている。

また、考察は研究目的、研究方法、結果を踏まえて記述されている。先行研究を用いて、学生の体験・グループダイナミクスを踏まえた教育支援が検討されている。

倫理的配慮は十分に行われており、表題、目次構成、文章表現の明瞭性等、論文の記述方法は適切である。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。